

女優ナナ (1926)

NANA

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 98分
初公開日 1927/04
公開情報 劇場公開

【解説】

ルノワールにしては重厚長大な、しかし、彼女しかありえないという打ってつけのヒロインに当時の妻エスランを擁し、まことに見ごたえのあるゾラの名作の映画化となった。生来のヴァンプである主人公ナナは男を渡り歩いて、場末の踊り娘から劇壇の寵児にまで成り上がる。パトロンとなったミュファ伯は奔放な彼女に振り回され、膨大な出費を重ね、やがては落ちぶれてしまう。一方で若い二枚目役者フォンタンにうつつを抜かすナナも、あっさりと裏切られ破綻していく。シュトロハイムの「愚なる妻」に触発され製作された、リアリズム志向とはいいいながらも、凡百の自然主義的それを軽やかに凌駕するなまめかしいフィルムであり、オータン＝ララの美術、監督自ら絶賛の伯爵＝クラウス（ドイツ資本との合作は彼の出演を見込んでのこと）の演技も素晴らしい。

【クレジット】

監督	ジャン・ルノワール	Jean Renoir
原作	エミール・ゾラ	Emile Zola
脚本	ピエール・レトランゲエ	Pierre Lestringuéz
撮影	ジャン・バクレー C・E・カウイン ジョルジュ・アセリン	
出演	カトリーヌ・ヘスリング ヴェルナー・クラウス ジャン・アンジェロ ピエール・シャンパーニュ ピエール・フィリップ ポーレット・デュボスト	Catherine Hessling Werner Krauss Jean Angelo Pierre Champagne Paulette Dubost